



No. 10

成 田 市
2005 年 11 月発行

～ともに生き ともに築く社会の実現に向けて～



(仮称) 成田市男女共同参画計画 “愛称” 十一月末まで募集



今輝いています！
成田のひと。

今年から運行している“コミュニティバス”の運転を担当している、吉河さんと橋本さんです。

★Contents(主な内容)★

☆個性は性を超えて～一人ひとりが生きる社会をつくる～

☆さざなみインフォメーション

■ ■ ■ 男女共同参画社会をつくっていくための5本の柱 ■ ■ ■

I 男女の人権の尊重 II 社会における制度又は慣行についての配慮
III 政策等の立案及び決定への共同参画 IV 家庭生活における活動と
他の活動の両立 V 国際的協調



個性は性を超えて

一人ひとりが活躍する社会をつくる

講師 東京大学社会科学研究所助教授 玄田 有史氏



今回は、男女共同参画週間中の六月二十八日に開催した講演会の模様をお知らせします。

一人ひとりにあった応援を

今、皆さんといっしょに「チャレンジする女性たち」というビデオを見ましたが、チャレンジするときというのは、男性でも女性でも「悩み」や「不安」があります。

私は、学生にはできるだけ言わないようにしている言葉があります。「普通は」と忙しい」と「頑張れ」の三つです。

「頑張れ」というのはよい言葉だけれど、嬉しいときとそうでないときがあります。頑張れない状況の人もいます。

少し前の話ですが、シドニーオリンピックのマラソンでシモン選手と競っていた高橋尚子選手に小出監督は、「頑張れ」ではなく「ロープを来ない」の一言だけアドバイスをしました。優勝候補ナンバーワンのロープ選手に抜かれるという不安の中で走っていた高橋選手にとってはそれが一番の声援だったのです。

人間は弱いから、一人で頑張ってチャレンジしてもなかなかうまくいかない。必ず誰かに応援してもらったり、励まされたりしてみんなが変わっていきます。

男性でも女性でもかかえている状況は一人ひとり違うから、周りの大人が一人ひとりをよく見て、一生懸命応援してあげないといけない。ただ「頑張れ」と言うのではなく、その人が今一番欲しているのだろうと思う言葉を自分の経験から話してあげましょう。



男女共同参画社会づくりのポイントは



男女共同参画に対してさまざまな考え方がありますが、圧倒的多数の人は、男性と女性とが関係なく、「一人ひとりが輝いていればよい」「一人ひとりが、一人ひとりと

して大切にされる社会をつくりたい」と考えているのではないのでしょうか。

男女共同参画は、「一人ひとりが、一人ひとりとして一番活かされる環境づくり」をみんなで考えることだと思います。

会社で男女共同参画を上手に行うには、必ず三つのやり方があります。

一つ目は、社長が「一生懸命やることです。しかし、社長が「男女共同参画にする」と言っても男性社員や中高年社員からは「面倒くさいな」と言われます。男女共同参画の最大の敵は「面倒くさい」という言葉です。それでも、社長が「男女共同参画にするのだ」「一人ひとりを活かせる環境をつくるのだ」と言い続けることが大事です。

二つ目は、「どこに一人ひとりが活かされていない原因があるか」みんなで話し合うことです。最初は、意見が出てこないかもしれないが、話していると必ず「これなら変えられる」という意見が出てきます。

三つ目は、目標をつくることです。ただ「男女共同参画をやりましょう!」だけでなく、みんなで話し合い、問題点をあげていく中で、具体的な目標をつくることです。すぐにはうまくいなくても、みんなで話し合っていくことで変わっていきます。

今年、「次世代育成支援法」が施行になり、従業員が三百人以上の会社は目標をつくる

ることになっていますが、社員みんなができる目標をつくることはとても大事です。この三つ以外にもっと大事なことがあります。男性でも、女性でも普段何気なく言っている言葉の中に「男はこうだ」とか「女はこうだ」というような固定的な役割分担に基づいた発言がたくさんあります。それを変えていかないと男女共同参画はうまくいきません。逆にいうと、男女共同参画はそれを変えるチャンスです。

これが、男女共同参画のポイントです。



「ありがとう」と言いあえる社会を

「女性頑張れ!」「チャレンジしよう!」と言うのはとても大事なメッセージです。しかし、「何でもかんでも自分でやらなければならぬ」というようなプレッシャーにはならないほうがよいと思います。

活躍するためには、百点満点ではなく、七十点でも六十点でもよいのです。仕事をしていく上で失敗はたくさんあります。その中で、「今日より明日がもっと良い自分になりたいな」という気持ちを男性でも女性でも持ち続けることが大事だと思います。

今、男女共同参画には、追い風がふいています。みんな、自分らしく生きたいのです。自分らしく働きたいのです。

これまで「みんな、自分らしさを求めているからそれにこたえるのが男女共同参画」ということを話してきました。一方で、残念ながら「ニート」と呼ばれる若者が増えています。

「どうすれば働けるかわからない」「なかなか自分のやりたいことが見つからない」「自分がどうすればよいかわからない」というように苦しんでいる若者がたくさんいます。どういったメッセージが必要なのかを考えています。

講演で小学校や中学校に行くと、『ありがとう』と書いたり、『ありがとう』と書いてあります。

子どもたちに『ありがとう』を今の倍言おうと言います。何のために働くかという『ありがとう』と言われて嬉しいから働いているという人が多いよと話します。

「ありがとう」と言われたら誰でも感動します。パートさんとか、正社員だとか関係ないのです。自分がこういうことをすることによってみんなが感動してくれるのだということを見ます。

「ありがとう」は自分を見つめるチャンスです。それによって喜んでもらえることを発見し、そこで自分らしさを考え、社会につながることを考えるのです。



コミュニケーションを大切に

男女共同参画の理想の姿というのはわかりませんが、男女共同参画は性別や年齢、国籍、職種とかいろいろなものを超えて、みんなが心をこめて、お互いに対して「ありがとう」と言うこと。小さな感動の音を鳴らしながら「ありがとう」と言いあえる社会なのではないかと思えます。その中で、みんなが「一人ひとりが輝くことができる環境」をつくることができれば、社会はさ

まざまな可能性がでてくると思います。

私は、男女共同参画に関わるようになって、「普通は」と「忙しい」と「頑張れ」を言わないようにしようと思えました。

「普通は」のように「男性ってこんなもの」「女性ってこんなもの」というような平均的なイメージだけで何かを話したり、ただ「頑張れ」とだけ言うのは良くないと思います。

一人ひとり違いがあるので、一人ひとりを大切にして、お互いに、コミュニケーションをとっていくことだと思えます。

言葉の問題というのはすごく大きいので、「何気なく決めていくべきだと思えます。それから、「忙しい」「忙しい」と言っていると余裕がなくなり、相手の話が聞けなくなり、みんなが心に余裕を持ちながら、語りあえる場所があるように思えます。

高い専門性や技術水準も必要でしょうが、どんな仕事でも、どんな生き方でも、誇りはあります。

若い人に「どんな仕事をしてきたのですか？」と聞かれた時、みんなが自分の言葉で、ささやかな誇りをもって伝えていければ、男性も女性もこの「共同参画を目指す社会」をきつと希望をもって受け止めてくれるのではないかと思います。



参加者の声

講演会に参加していただいた方の声をお届けします。

今まで男女共同参画について深く考えたことはなかったが、この講演会を機会に考えてみたいと思います。

期待以上の内容で充実した時間になりました。一人ひとりの感性と行動力を大切にする男女共同参画社会。足元を見つめて考えていきたいと思えます。男女の生き方に、決めつけた考えをせず、頑張り過ぎずに役割を自分なりにこなすことの大切さを学びました。

男女共同参画についての確に語ってもらいすごくよかった、いちいちなすくことばかりでした。口調も穏やかで親近感があり聞いていて気持ちがよかったです。働きやすい職場、人間関係のよい職場が発展するということにもなすけました。

男女共同参画というからには女性だけでなく男性を変えることが必要である。もっと多くの男性に参加してほしいと思えます。

玄田先生の講演内容に共感しました。改めて言葉を認識する大切さを認識しました。

講演の中に出てきた「ありがとう」をたくさん見つけたいと思えます。

自分の小さな役割も、生き方にも誇りを持つてよいのだと嬉しく思いました。

成田市が男女共同参画に対するさまざまな取り組みを行っていることを知った。これから参加したい。



男女共同参画関係の講演会は、八人の男女共同参画推進員の皆さんのご協力により開催しています。

Eメール kikaku@city.narita.chiba.jp